2019年7月2日（火）

次世代に引き継ぐ
淵野辺駅南口周辺のまちづくり

相模女子大学
山本匡毅

目次

1. ソフトとハードのまちづくり
2. 淵野辺地区を取り巻く条件
3. 次世代のまちの描き方

講話の問い：

「2020年代のまちづくりをどのように考えるのか？」

1. ソフトとハードのまちづくり

(1)まちづくりとは

・まちづくり:「**市民が直接に関わり、主体性をもってより良い「まち」を「つくって」いく**」(田村(1999)p.28、p.120)

※市民:相模原市民×

自分たちが協働して**まちに責任をもって作っていく**存在○

⇒行政への要求型まちづくりからの転換

1. ソフトとハードのまちづくり

・まちづくり：**市民にとって自分事**

【理由】

補完性原理：基本的に個人を自治の主体と認識し、個人ができないことを基礎自治体が担当するというように、上位政府が政策を補完するというように考える方法

⇒まちづくり：行政が行うのではなく、

個人・市民が**主体的に担う**

1. ソフトとハードのまちづくり

・ハードのまちづくり（外科的まちづくり）：

「*社会資本整備を中心としたまちづくり*」

・ソフトのまちづくり（内科的まちづくり）：

「***時間をかけた人々のつながりや活動が織りなして暮らしを支えていく***」こと。

⇒対立するものではなく、不可分に支え合う。

（例）ハード事業の中にソフト事業の感覚をいかに埋め込むかが重要

（石原・西村（2010）p.31）

1. ソフトとハードのまちづくり

(2)ハードのまちづくり

・**社会資本整備**:いわゆる「ハコモノ」＝**ハード**

⇒かつての日本の都市政策で重点

(例)相模原市の道路、公営住宅、公共施設

・人口増加時代の社会資本:維持・更新期

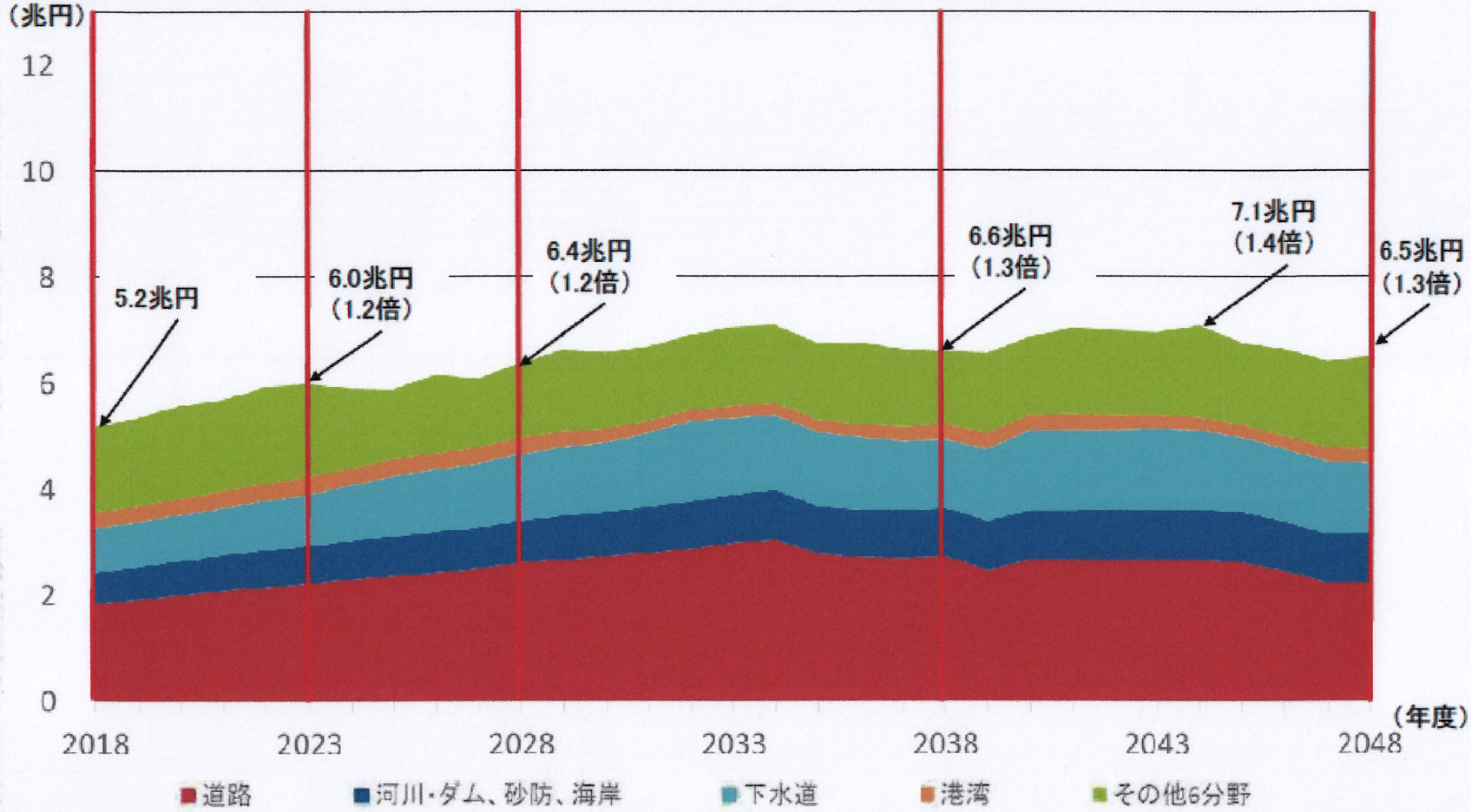
⇒**すべてのハードを残すことは不可能**

【理由】

人口減少、少子高齢化、生産年齢人口の減少、将来的な税収の減少

1. ソフトとハードのまちづくり

図表1　国土交通省所管の社会資本に係る維持管理・更新費推計（平成30年度）



出所：国土交通省（2018）「国土交通省所管分野における社会資本の将来の維持管理・更新費の推計」p.2。

1. ソフトとハードのまちづくり

・ハードのまちづくりの現状：

すでに造った公共施設の維持管理

【山崎亮の主張】

維持管理費：「***単なるメンテナンスに使うだけではなく、いかにマネジメントするかが重要***」

⇒限られた予算を使って、公共空間を効果的にマネジメントする方法が必要。

（山崎（2012）pp.44-45）

1. ソフトとハードのまちづくり

(3)ソフトのまちづくり

・ソフトのまちづくり:

コミュニティ(社会関係資本)の再構築

⇒つながり(ネットワーク)をいかにつくるか

【ポイント】**信頼の醸成、互酬性の創出**

【場】

地縁型コミュニティ:自治会、商店街組合など

テーマ型コミュニティ:サークル、NPOなど

⇒課題解決:どのような仕掛けが必要か?

2. 淵野辺地区を取り巻く条件

(1)迫る人口減少・高齢化

・相模原市：歴史上、人口減少の経験なし

⇒**2020年前後から人口減少へ**

・2045年の総人口：638,888人←約72万人

⇒政令指定都市の要件を満たしていない。

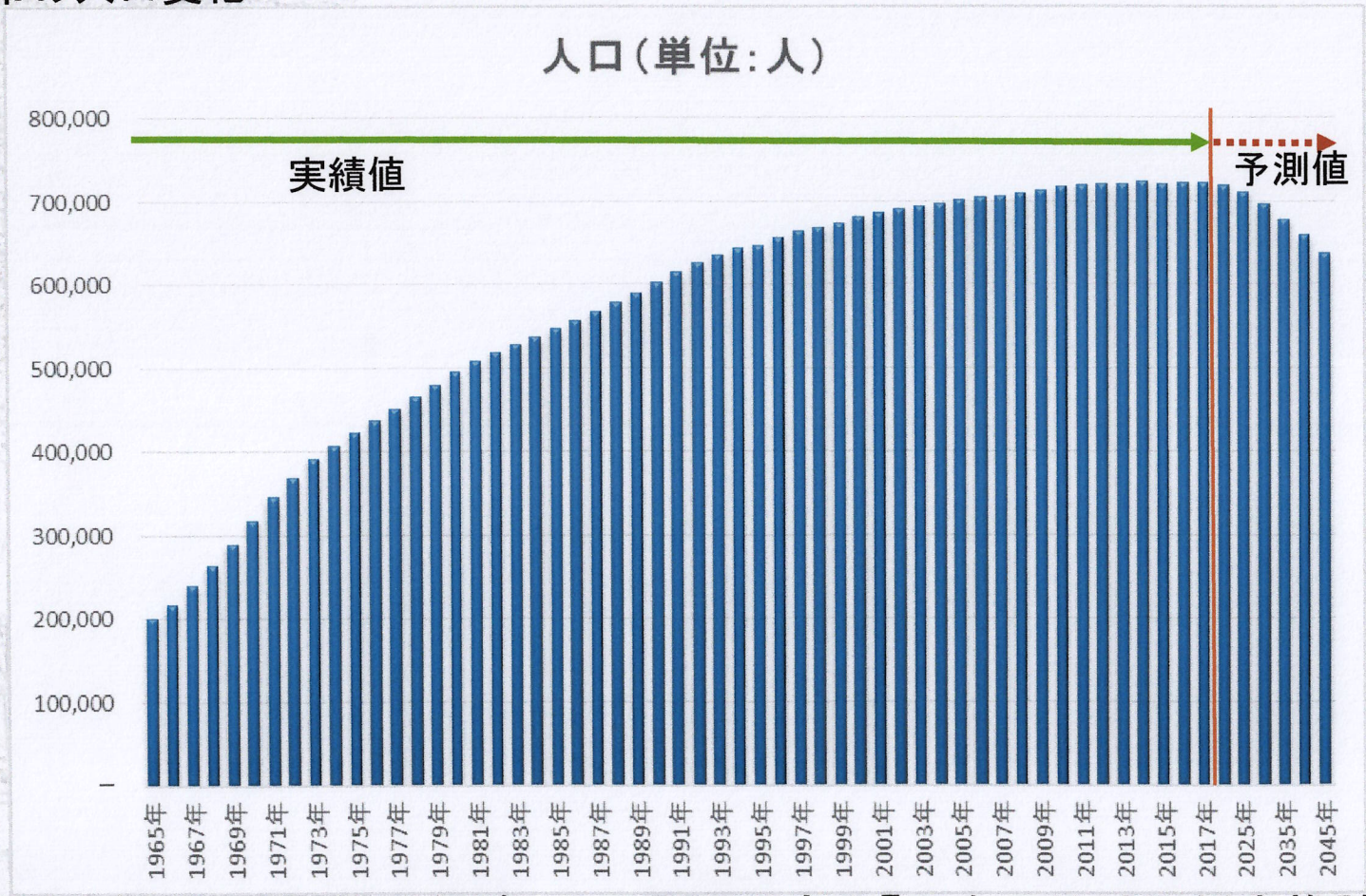
1993年の人口水準

・人口減少の幅：84,124人（2018年⇒2045年）

⇒**綾瀬市がなくなるのとほぼ同じ**

2. 淵野辺地区を取り巻く条件

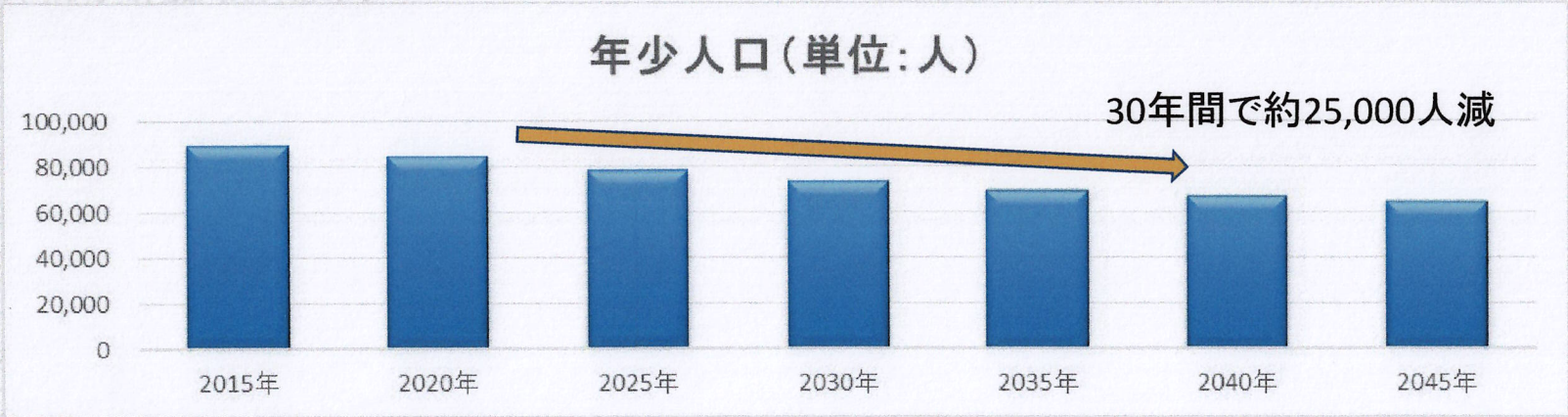
図表2　相模原市の人口変化



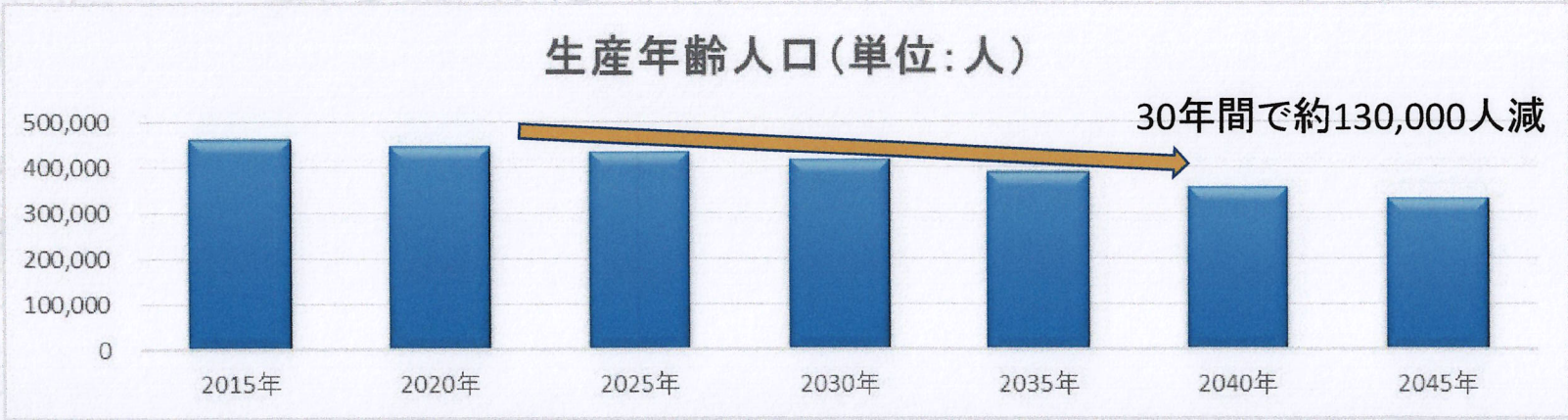
出所：相模原市ホームページ、社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成30（2018）年推計）より報告者作成。

2. 淵野辺地区を取り巻く条件

図表3　相模原市の年少人口の変化



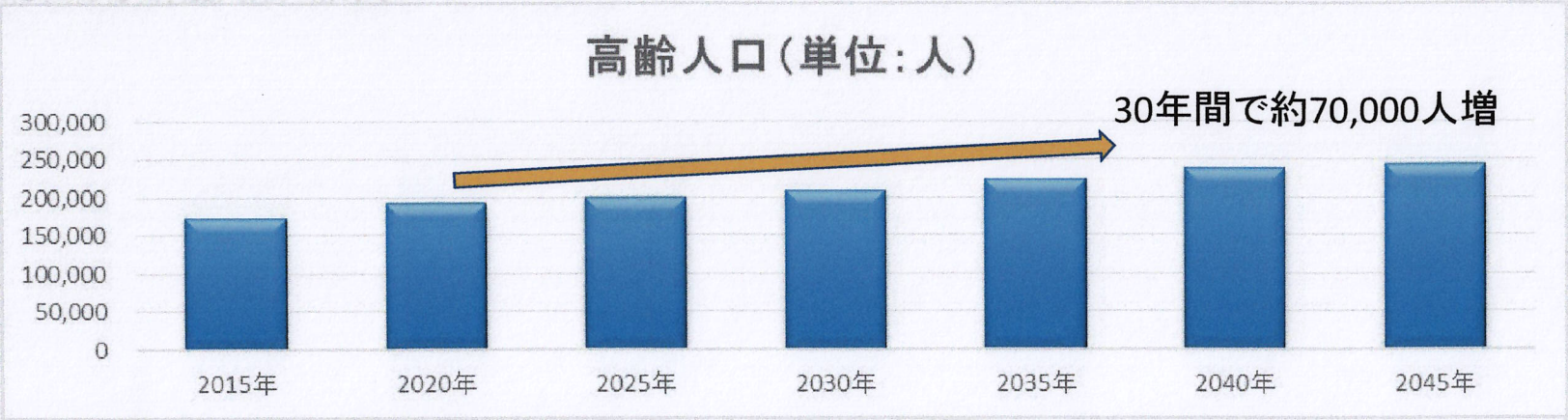
図表4　相模原市の生産年齢人口の変化



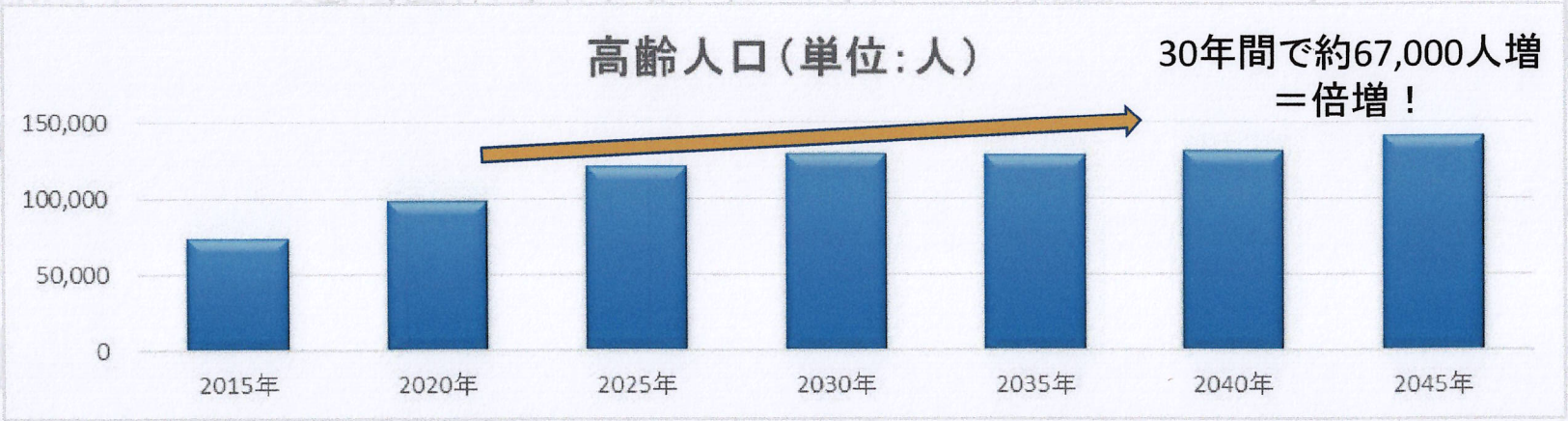
出所：相模原市ホームページ、社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成30（2018）年推計）より報告者作成。

2. 淵野辺地区を取り巻く条件

図表5　相模原市の高齢人口（65歳以上）の変化



図表6　相模原市の高齢人口（75歳以上）の変化



出所：社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成30（2018）年推計）より報告者作成。

2. 淵野辺地区を取り巻く条件

図表7　1989年と2018年頃の淵野辺

出所：国土地理院、Google Earth

2. 淵野辺地区を取り巻く条件

(2)外国人人口の増加

・相模原市の外国人人口：

13,812人（2017年度）

⇒中央区：5,547人（2017年度）【市の40.16%】

・外国人人口の増加数：

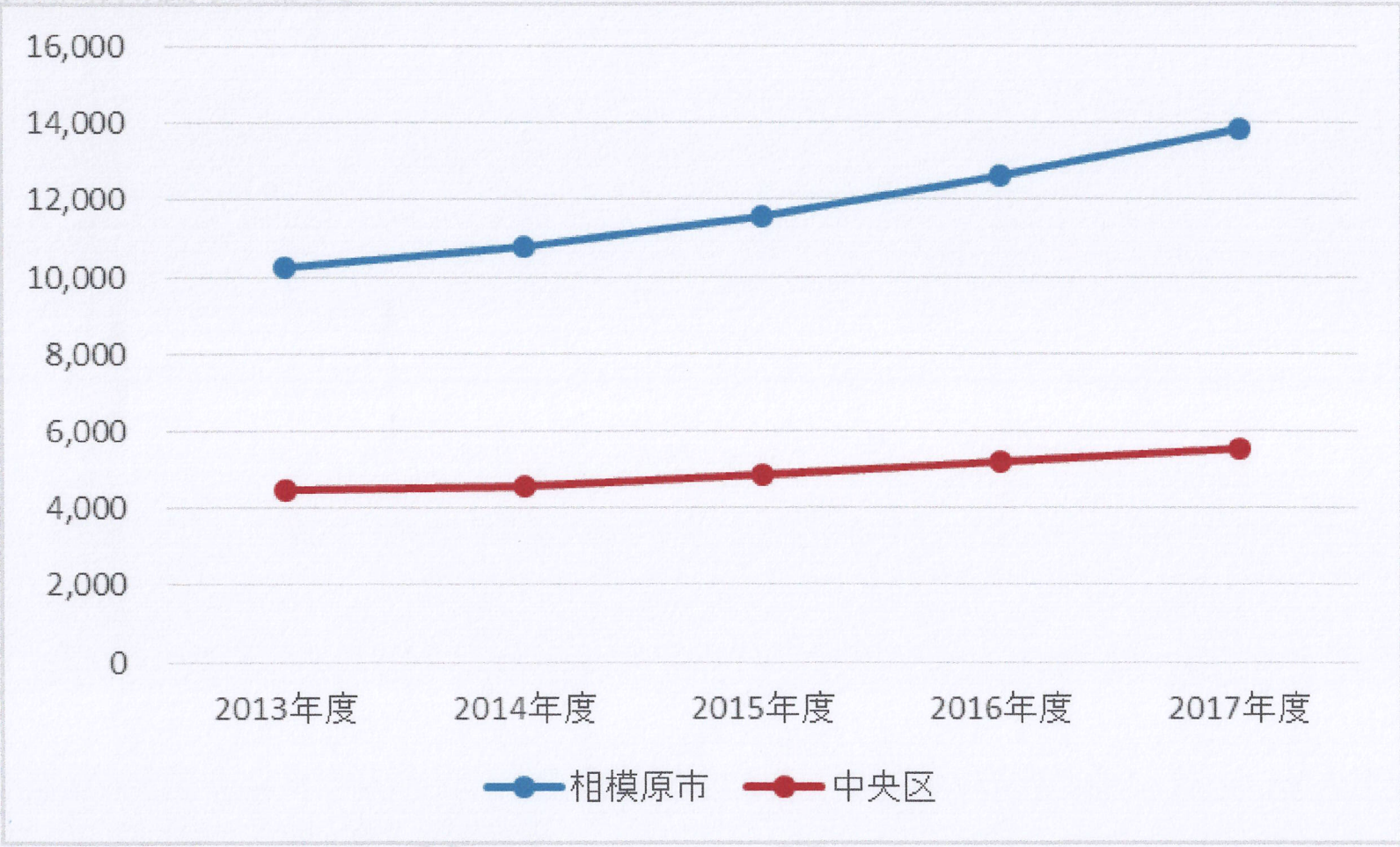
日本人の人口増加＜外国人の人口増加

⇒日本人は転出超過（2017年以降）

※人口減少の兆候？

2. 淵野辺地区を取り巻く条件

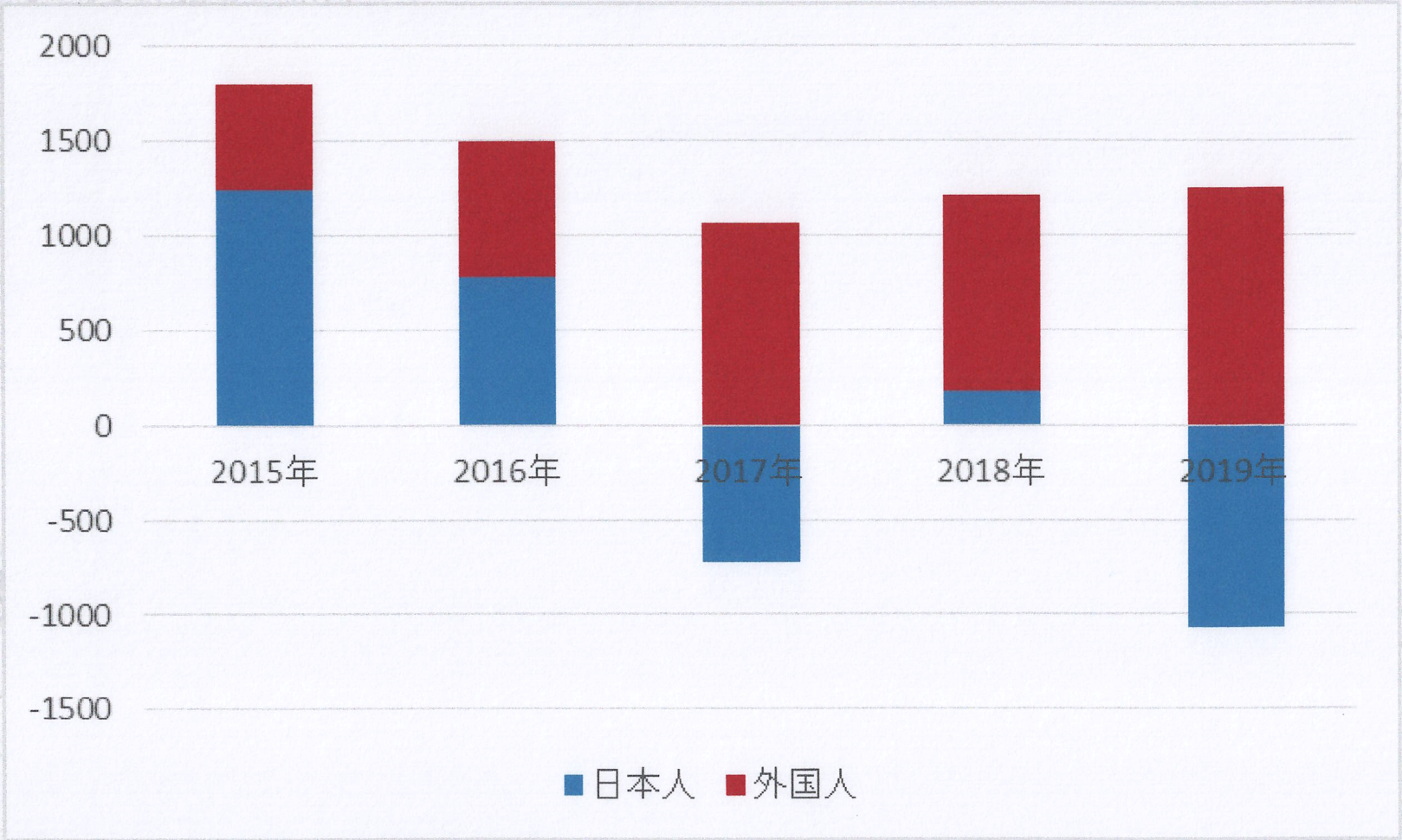
図表8　相模原市の外国人人口変化



出所：相模原市ホームページより報告者作成。

2. 淵野辺地区を取り巻く条件

図表9　相模原市における日本人と外国人の人口増減



出所：神奈川県ホームページより報告者作成。

2. 淵野辺地区を取り巻く条件

(3)桜美林大学のキャンパス移転

・**学群の拠点化＝新キャンパスへの移転**

(例)ビジネスマネジメント学群(2,000人):
町田キャンパス→新宿キャンパス

芸術文化学群(1,600人):町田キャンパス
→東京ひなたやまキャンパス

航空・マネジメント学群(560人)
多摩アカデミーヒルズに新設

2. 淵野辺地区を取り巻く条件

・2019年～2020年：淵野辺地区周辺から
3,600人の学生がいなくなる

⇒**淵野辺駅：**
「桜美林大学」の玄関口というのは思い込み

・大学：学生募集のために、都心回帰の傾向

⇒「そこに大学がある」ということは
当たり前ではない。

※大学、学生が居たいと思う淵野辺とは？

3. 次世代のまちの描き方

・**現状維持：困難**

【要因】人口減少、外国人増加、高齢化、
少子化、大学の移転、財政の逼迫etc

（例）地方財政：自由に使えるのは一般財源

⇒**義務的経費（公債費、扶助費、人件費）増加**

※歳入が人口減少で減る＝一般財源も削減

※公共施設の老朽化＝維持管理費の増加

・まちづくりに使える予算：一段と制約される

3. 次世代のまちの描き方

・淵野辺のポジション：地域拠点

⇒市の「提言」に出ているだけではない。

【根拠】**都市の階層構造**：各都市は供給する財の特性（高低）に応じて階層化する。

（例）ブランド品を買いに淵野辺へ行かない。

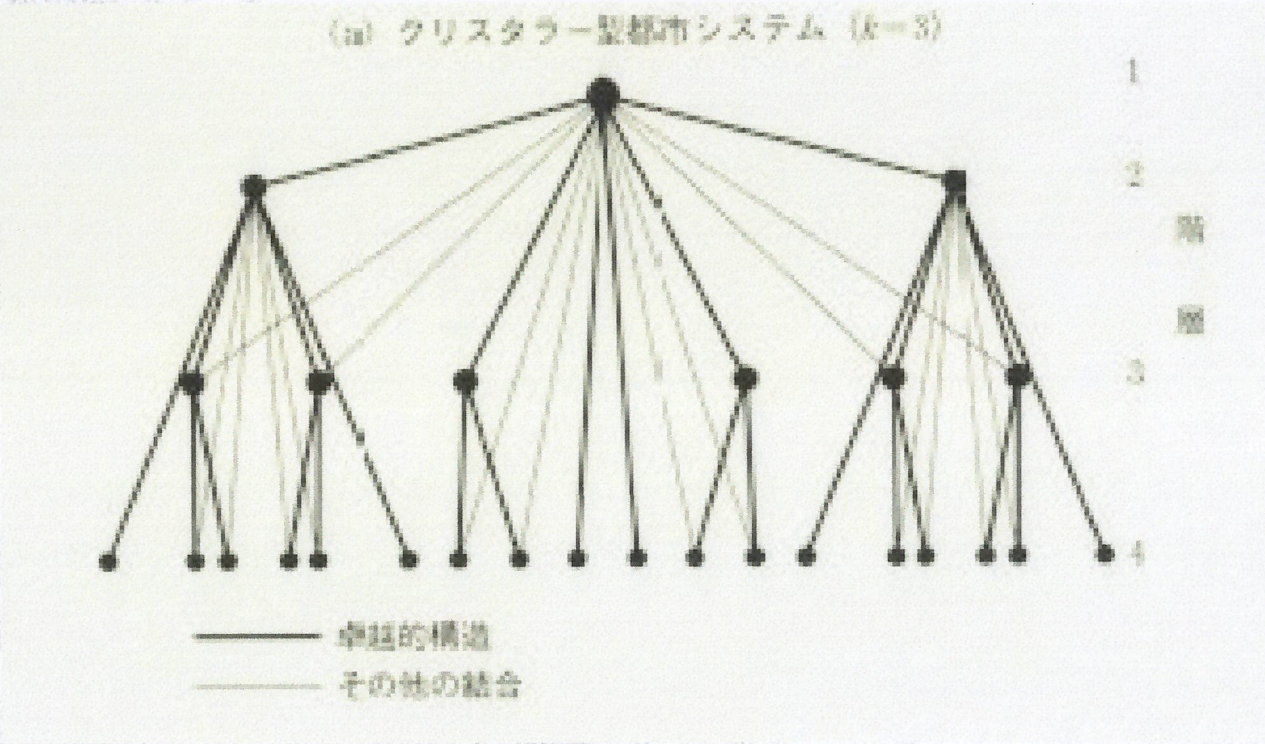
⇒町田、新宿へ行く。

＝淵野辺は町田、橋本にはならない

※淵野辺のポジションの明確化が必要

3. 次世代のまちの描き方

図表10　都市の階層構造



出所：山田浩之・徳岡一幸（2018）『地域経済学入門〔第3版〕』有斐閣、p.178。

3. 次世代のまちの描き方

・グランドデザイン：**中長期のまちづくりの理念や将来像、進むべき方向性を示した構想**

（板橋区ホームページhttp://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/072/072079.html）

【制約条件の中で考える】

①地域課題は何か、要因を分析する。

②「現場」で考え、見える改善を積み重ねる。

③現実から将来像を描き、実践する。

⇒理想だけで語らない。現実を楽しむ。

3. 次世代のまちの描き方

・まちづくりの事例：延岡駅周辺活性化

【事業内容】市民活動を基軸としたまちづくり

①**ノベオカノマド**：市民活動、個人の趣味を披露

方法：自由に使える空間づくり

テーマ型コミュニティの活性化

②**デザイン監修者の公募**：

事業主体、市民の意見調整

⇒公開プレゼンテーションで建築家を選定

③**社会実験**：市民活動を商店街等で試験的実施

【結果】ワークショップを積み重ね、駅前、駅舎を含む面的な公共空間づくり（エンクロスの建設）

3. 次世代のまちの描き方

図表11　完成までに8年かけた延岡駅のエンクロス

出所：studio-Lホームページ（http://www.studio-l.org/project/12_nobeoka.html）、延岡市ホームページ（http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/display.php?cont=180412202022）より抜粋

3. 次世代のまちの描き方

・さて今度は淵野辺駅南口の番です。

何から始めますか？

⇒ ？

参考文献

石原武政・西村幸夫（2010）『まちづくりを学ぶ―地域再生の見取り図―』有斐閣

稲葉陽二（2011）『ソーシャルキャピタル入門』中公新書

今村寛（2018）『自治体の“台所”事情　“財政が厳しい”ってどういうこと』ぎょうせい

田村明（1999）『まちづくりの実践』岩波新書

山崎朗・杉浦勝章・山本匡毅・豆本一茂・田村大樹・岡部遊志（2016）『地域政策』中央経済社

山崎亮（2012）『コミュニティデザインの時代―自分たちで「まち」をつくる―』中公新書

山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門〔第3版〕』有斐閣

渡辺直子（2013）『山崎亮とゆくコミュニティデザインの現場』繊研新聞社

ご清聴ありがとうございました。